





立川駅東口前。朝から結構人通りが多い場所です。



南口デッキから“サングラス姉さん”を先頭に出発！



柴崎体育館駅前の立川公園で熊坂Lのストレッチ。



あらためて本日のコース説明と新会員の紹介。



立日橋から多摩川土手に出ます。



橋にはこんなモニュメントが。



上はモノレールの二階建て構造。



後方は立日橋。影を見ると冬日の低さが分かる。



土手上は自転車が多いので河原へ下ります。



ここなら安心して歩けますね。



あれ？いつものあの人が・・・



でもそこにはこんな注意書きも！



古来多摩川には多数の渡し場がありました。



当時はもっと川幅があったようです。



前方には赤いアーチの多摩橋が見えて来ました。



ここで小休止。道路上で休憩はダメですよ！



冬場はトイレが近くなります。Lも時間とにらめっこ？



お地藏さまの言う通り、ゴミは持ち帰りましょう。



多摩橋をバックに全員集合。青空の下皆さんの顔も輝いています！（女性はシワが隠れて美肌に写る？かも）



宮沢公園でランチタイム。遊具を椅子がわりに。



今流行のスタンディングランチ？かも。



山茶花を背にした素敵な場所です！



箸が転んでも可らしい年頃？（そんなはずでは・・・）



以前食後に「ウシ」になった人。懲りて今日は正座？



え〜、まだ食べるの？「18km歩くには食べないと・・・」



食後の運動？止めた方が・・・



身軽な女性陣はこの通り！誰？



「俺たちも減量しないと・・・」



公園の下は多摩川上流水再生センター。



左側の建物には水族館もあります。



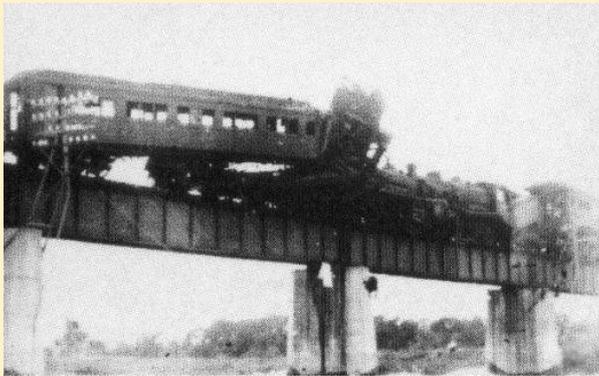
くじら公園の土手上には錆びた車輪が。



ここはかつて八高線の列車衝突事故があった場所です。

★八高線列車衝突事故とは (Webサイトより引用)

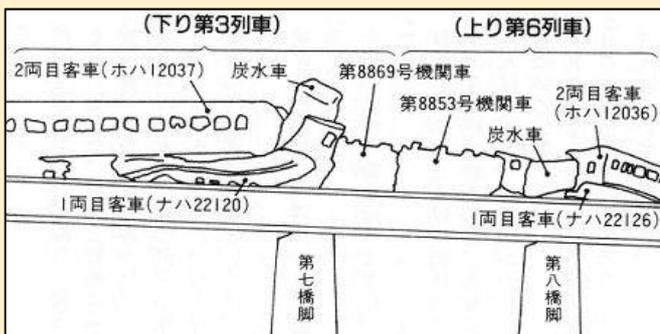
国民が戦時の生活環境から抜け出しきれずにいた、終戦7日目の東京は曇天となり、夜に入って関東の西北部を激しい雨を伴った豆台風が襲った。8日目に入っても、時折の驟雨が続き、各地で出水騒ぎが起きていた。衰えを見せない風雨は、深夜になって風速を増し豪雨となり、八高線が渡る多摩川も濁流となっていた。1945年8月24日午前7時40分、八高線の小宮駅を出た下り列車と拝島駅を出た上り列車が、多摩川鉄橋上で正面衝突した事故。単線の八高線は、閉塞区間をタブレットの交換で走行する方式だったが、この日は豪雨のため鉄道電話も不通となり、相互の連絡がとれなくなっていた。そのため両駅の担当者は、連絡の行き違いから相手側の列車が待機するものと勘違い、発車の許可を出してしまったことでこの大惨事となってしまった。死者104人、行方不明20人、重軽傷者150人といわれたが、悪天候のため正確な人数は不明。



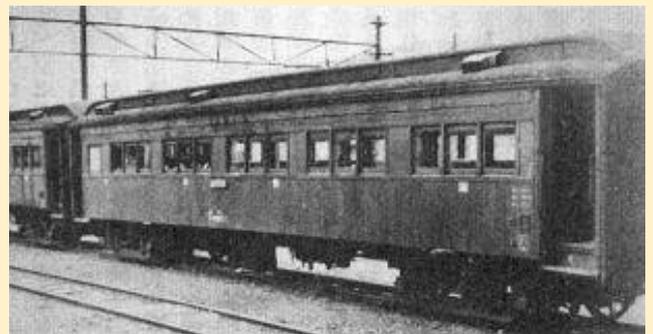
正面衝突の凄まじさが分かる現場の写真。



蒸気機関車は窓が小さく前方が見えにくかった。



上の写真の説明イラスト。先頭は見る影もなし。



当時の客車は木造で火災や衝撃にも弱かった。



前方に見えるのが事故のあった八高線鉄橋。



ここから歩行者専用。後続を待ちます。



込み合う国道16号の拝島橋。



テントを張っている人も。



だいぶ陽も傾いてきました。



昭和水堰。水量は少なめです。



多摩川に相應しいその名も水鳥公園。



ここで昭島市から福生市に入ります。



福生南公園。この先の睦橋袂まで広がる広い公園。



さすがにお疲れ。椅子を見るとすぐ座る癖が・・・



ここでも・・・あとどのくらい？疲れもピークに。



睦橋。左側は福生、対岸は八王子市。



この時間になっても晴れが続いて。



またまたここで後続待ち。早く来ないかな・・・



五日市線橋梁。前方が武蔵五日市方面です。



夕刻が近づき風景もどこか寂しく感じられます。



今日一日我々を見守ってくれた大岳の夕景。



前方には多摩橋。クッションの効いた道。



枯葉の絨毯にサクサクとした足音が響く。



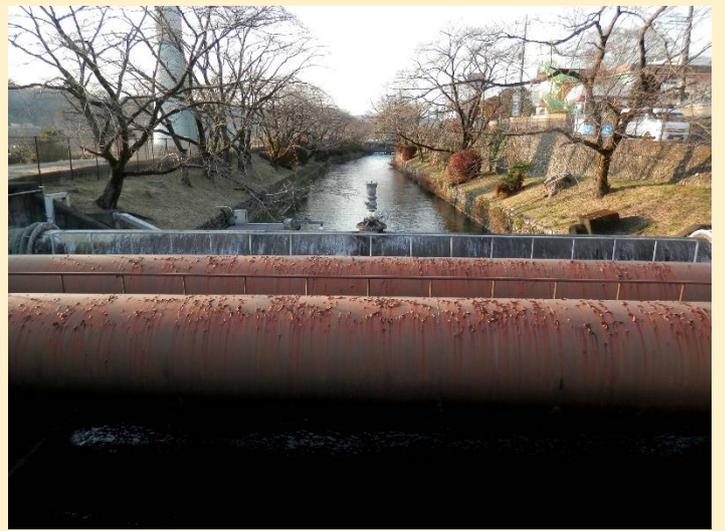
疲れた？まだ大丈夫よ・・・あと少し！



やっと羽村大橋へ。その先が羽村橋。



見えた羽村橋。その手前を右折し多摩川と別れ・・・



玉川上水の橋を渡る。前方に羽村取水堰（次回に）



その先の公園で夕陽を浴びてのクールダウン。



おばちゃん、どうしたの？「大人になれば分かるわよ！」



まだ新しそうなゴールの羽村駅。お疲れ様でした！



青梅線ホーム。電車を待つ間も歓談の輪が・・・

★こうして多摩川を歩く-その④が無事終了しました。いよいよ次回からは多摩川も上流部となりますが、今後は集合駅及び帰りの駅が徐々に遠くなっていきます。最後まで完歩出来るよう気合を入れ、事故の無いよう頑張って歩きましょう。

END